

11月の平均気温が高く、普通温州の成熟が進んでいます。
完全着色した果実から減酸を確認し、順次収穫しましょう！

令和3年 11月の気象

令和3年 11月の半旬別の気象を表1に示した。平均気温は第1～第3、第5半旬で平年より高く、他は平年並であった。月平均気温は14.2℃で、平年より0.8℃高く、前年より0.6℃低かった。

降水量は第2、第5半旬で平年より多く、他は平年より少なかった。月合計は172mmで平年の109%、前年の528%であった。

日照時間は第1、第3、第6半旬は平年より多く、他は平年並～平年より短かった。月合計は182時間で平年の124%、前年の114%であった。

表1 令和3年 11月の気象(暖地園芸研究所)

半旬	平均気温 (°C)			降水量 (mm)			日照時間 (hr)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	15.7	15.3	15.9	7	19	25	33	25	30
2	16.2	14.9	15.6	52	30	0	20	25	17
3	15.3	14.0	12.8	0	27	0	43	24	34
4	12.8	12.8	18.4	1	27	2	21	24	33
5	13.9	11.7	14.4	110	34	6	25	24	24
6	11.3	11.7	11.9	4	20	1	40	24	21
平均/計	14.2	13.4	14.8	172	158	33	182	146	159

平年：1991年～2020年の30年間の平均

なお、表の数値は、表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある。

2 果実及び樹の生育

12月2日における調査園の果実生育状況を表2に示した。以下、3地区の平均を平年及び前年と比較すると、横径は「大津4号」が7.1cmで平年及び前年より小さかった。「青島温州」が7.3cmでほぼ平年及び前年並みであった。縦径は「大津4号」は4.4cm、「青島温州」は4.6cmで、両品種共に平年及び前年より小さかった。果形指数は「大津4号」、「青島温州」共に1.6で、両品種共に平年及び前年より扁平な傾向であった。

表2 果実の生育(令和3年 12月2日)

品 種	調査地	横 径(cm)			縦 径(cm)			果形指数		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
大津4号	三芳地区	6.6	7.4	7.3	4.1	5.0	5.1	1.6	1.5	1.4
	千倉地区	6.7	7.5	7.6	4.2	4.8	5.1	1.6	1.6	1.5
	暖地園研	7.9	7.8	7.7	4.9	5.1	5.1	1.6	1.5	1.5
	平 均	7.1	7.6	7.5	4.4	5.0	5.1	1.6	1.5	1.5
青島温州	三芳地区	6.7	7.4	7.3	4.3	5.0	5.1	1.6	1.5	1.4
	千倉地区	6.9	7.2	7.3	4.3	4.9	5.0	1.6	1.5	1.5
	暖地園研	8.2	7.6	7.6	5.3	5.0	5.2	1.5	1.5	1.5
	平 均	7.3	7.4	7.4	4.6	5.0	5.1	1.6	1.5	1.5

注1) 各地点の各品種の値は40果の平均とした。ただし、鳥害、落果等により調査果実を変更した

2) 果形指数は、横径/縦径とした

普通温州の果実品質

12月2日現在の果実品質を表3に示した。

着色程度は「大津4号」が3地区平均で9.4であった。3地区共に平年及び前年より高かった。「青島温州」では8.2であった。三芳地区は平年及び前年より高く、千倉地区ではほぼ平年及び前年並み、暖地園研では平年より高く、前年より低かった。

糖度は「大津4号」が3地区平均で10.3であった。三芳地区及び暖地園研は平年及び前年より高く、千倉地区では平年及び前年より低かった。「青島温州」では3地区平均で9.3であった。三芳地区は平年より高く、前年より低かった。千倉地区では平年より低く、前年より高かった。暖地園研では平年及び前年より低かった。

酸度は、3地区平均で「大津4号」が0.85であった。三芳地区及び千倉地区は平年より低く、前年より高かった。暖地園研では平年並みで前年より高かった。

「青島温州」では3地区平均で0.87であった。三芳地区及び千倉地区は平年並～やや高く、前年より高かった。暖地園研では平年より低く、前年より高かった。甘味比は「大津4号」が3地区平均で12.3であった。三芳地区では平年より高くほぼ前年並みで、千倉地区ではほぼ平年並みで前年より低く、暖地園研では平年より高く前年より低かった。「青島温州」では3地区平均で10.9であった。三芳地区ではほぼ平年並みで前年より低く、千倉地区では平年及び前年より低く、暖地園研では平年より高く前年より低かった。

果肉歩合は3地区平均で「大津4号」が76.4、「青島温州」が74.5であった。両品種共に、全ての調査地においてほぼ平年及び前年並みであった。

本年度は成熟が進んでいる。現時点での食味は「大津4号」は普通～やや良好、「青島温州」は普通～やや良好である。浮皮は散見される程度であった。

表3 普通温州「大津4号」及び「青島温州」の果実品質（令和3年12月2日）

品 種	調査地	着色程度 (0~10)			糖 度 (%)			酸 度 (%)			甘味比			果肉歩合 (%)		
		本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
大津4号	三芳地区	9.3	7.8	8.3	10.5	10.0	10.2	0.81	0.84	0.78	13.0	12.0	13.1	75.8	75.4	75.9
	千倉地区	9.1	8.4	8.5	9.4	10.1	10.0	0.87	0.93	0.82	10.9	11.1	12.3	76.2	75.7	75.0
	暖地園研	9.7	7.9	9.3	11.0	10.0	10.5	0.86	0.85	0.72	13.0	11.9	14.8	77.3	75.0	75.6
	平均	9.4	8.1	8.7	10.3	10.0	10.2	0.85	0.87	0.77	12.3	11.7	13.4	76.4	75.4	75.5
青島温州	三芳地区	8.7	7.2	7.3	9.4	9.0	9.6	0.90	0.89	0.88	10.4	10.2	11.0	73.9	74.3	75.3
	千倉地区	7.9	8.0	7.8	9.4	9.6	8.9	0.93	0.90	0.85	10.3	10.8	10.5	75.2	74.3	74.7
	暖地園研	7.9	7.4	8.3	9.2	9.5	9.8	0.77	0.87	0.73	12.0	11.1	13.6	74.4	75.5	73.9
	平均	8.2	7.5	7.8	9.3	9.4	9.4	0.87	0.89	0.82	10.9	10.7	11.7	74.5	74.7	74.6

平年値は平成12～令和2年の平均値

甘味比＝糖度／酸度

果肉歩合＝（果肉重／1果重）×100

12月～3月の栽培管理

（1）普通温州の収穫・予措

普通温州では果実の着色が8分程度の場合、貯蔵中にほぼ完全着色するが濃厚な橙色とはならず、初期の減量が完全着色果に比べ大きい。また、完全着色果に比べ糖含量が低いので、高品質の果実として出荷できない。そのため、まずは全体の約半数の果実（完全着色果のみ）を収穫する。さらにそこから10日後に、8分着色以上のものを収穫する。

収穫時についた果面の傷が腐敗の原因となることが多いので、必ず手袋をはめ、先の丸い採果鋏を用いる。採取容器は肩から掛ける袋か、かごを用いる。

収穫直後の果実は果皮の水分が多いので、コンテナに果実を7分目ほど入れ、風通しのいい日陰に10～15日置く予措を行うと、果実の重量が3%程度減少して果皮の活性が抑制され、貯蔵中における果汁成分の消耗が少なくなる効果がある。また、果皮がしなやかになり、選果や出荷時の傷果の発生予防になる。

(2) 病害虫の防除

青かび病・緑かび病の予防には、収穫前にベフラン液剤25(2000倍液)を散布する。

ミカンハダニ、カイガラムシの防除は2月下旬～3月上旬にマシン油乳剤(97%)60倍液を散布する。厳寒期を避け、晴天が続く暖かい日に実施する。また、樹勢の弱い樹や台風の影響で著しく落葉した樹では、散布を見合わせる。

※農薬の登録内容は変更になる場合があるため、農薬使用の際は最新情報を確認する。

(3) 防寒対策

気象情報に注意し、適切な防寒・低温対策をとる。樹体を強い寒風から守るため、防風垣や防風ネットを設置する。斜面下部など冷気のたまりやすい場所の防風垣は下枝を切り冷気を逃がす。

また、果実は寒害で食味が低下するため、収穫適期を迎えた果実は寒さを受ける前に収穫する。

なお、表の数値は表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計は一致しない場合がある。

《 生育情報の問合せ先 》千葉県農林総合研究センター 暖地園芸研究所 特産果樹研究室 電話 0470-22-2961 ※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>